林道事業再評価調書

事　業　名	林道開設事業　（森林基幹道）	路　線　名	梶山内田線（かじやまうちだせん）
事業主体	徳島県	関係市町村	美馬市（旧穴吹町）

事業概要

【目　的】

当路線は、美馬市中西部の八面山から北へ延びる稜線の東側斜面一帯を中心とした広大な人工林地帯での森林整備の基盤として整備するもので、森林の有する多面的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的とし、ひいては地球温暖化防止や循環型社会の形成に役立つものと期待される。

加えて、穴吹川沿いの国道492号の上部に平行して位置することから、災害時の迂回路として、また内田から北又集落の孤立を防ぐための路線としても期待されており、地元住民及び森林所有者等から早期完成について強い要望がある。

【内　容】

利用区域面積	1,461ha	［人工林面積:1,056ha（72%）］
受益戸数(森林所有者数)	450戸	
幅　員	4.0m	
計画延長	18,556m	（うち令和5年度末の供用予定延長　11,843m）
総事業費	5,980,000千円	（うち令和5年度末の実施予定事業費　3,991,761千円）
事業予定期間	平成4年度 ～ 令和20年度	（47年間）

評価項目

【事業の進捗状況】

当路線は平成4年に着工し、起点側の梶山工区4，396m、中間の北又工区1，680m、終点側の内田工区5，767mが供用され、路線全体では11,843mが完成共用を予定している。

［進捗率:64%］

【関連事業の整備状況】

当路線には5路線の林道が接続しており、路網のネットワーク化が構築されるとともに、高性能林業機械による間伐システムが展開されており、引き続き低コストで効率的な搬出間伐及び伐採から造林（森林サイクル）までの一貫施業システムが行われる見込みである。

【社会経済情勢の変化】

本県は県土の4分の3を森林が占め人工林率も約60％と高い。森林資源量はこの40年間で約3倍にまで増加し、その大部分が利用可能な状態まで成長している。県では、利用期を迎えた豊富な森林資源を活用するとともに、カーボンニュートラルにも資する森林循環（伐って、使って、植える）を進めることにより、森林・林業を「核」とした「地方創生」の実現を目指している。

木材を安定的に生産・供給し、林業・木材産業の成長産業化を図るには、搬出コストの低減が必須であり、高性能林業機械の導入や効率的な木材輸送のための、林道を基幹とした路網整備が強く求められている。

【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】

無し

【事業効果の発現状況】

供用開始した区間を利用して、平成4年度から令和4年度までに、延べ868．9haの森林において植林りや除間伐等の施業が実施されている。今後、供用区間が増加するに伴い、さらに森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。

［費用対効果］　1.68　（国の採択基準は1.0以上）

【受益者・関係機関の意向】

適正な森林の整備を行う上で骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きく、また、5つの林道に接続し国道や県道にも接続していることから災害等緊急時の迂回路として利用でき、地元美馬市をはじめ森林所有者等、早期完成を強く要望している。

【事業の実施方針】

継続して事業を実施する。